

防災教育が続くには



所澤新一郎

共同通信仙台支社編集部

2013年10月19日
ESDテーマ会議2013
【防災教育と気候変動教育】

- 東日本大震災で幼稚園児から大学生まで659人が死亡
- 保護者引き渡し後、多くの児童生徒が犠牲になったのが特徴
- 多くの学校現場で先生方が子どもたちの命を守った
- 多くの被災地で事前の備え
- 臨機応変の判断
- 素晴らしいリーダー、主体的に動く人がいた
- ハードだけで命は守れない
- 結局は「人」

<かつての防災教育のイメージ>

- 形骸化した避難訓練
- 市民・子どもは受動的な役割
- 脅しの防災



- 東日本大震災の前から変化の兆し

- 「生活防災」の提唱(2009、矢守)
- ふだんの生活の中で防災をとらえ、切り離さない
- 家庭、仕事、勉強、レジャー、お祭り...
- (例)
 - ▽日頃からのゴミ減量
 - ▽日常の隣近所とのあいさつ
 - ▽住居の日常的な整理
 - ▽家族の外出先の相互確認、信玄堤での花見
- 繰り返し、行事化していこう...

< 学校現場 >

- 体系的な学習カリキュラムない
- 防災教育の教科科求める声も
- 現場でさまざまな工夫
- どんな教科からもアプローチ可能
- 地理学んだ英国少女のスマトラ沖地震での行動

<ESD(持続発展教育)そのもの！>

- ・体験型・参加型の防災教育へ
- ・主体的に動き、臨機応変に対応できる市民の育成
- ・さまざまな事態を想定できる力
- ・自然と共生。ふだんは恵みをたっぷり享受！
- ・楽しいと持続する
- ・災害はローカル、危険な場所の確認×宝探しも！
- ・地域を知り、好きになる郷土教育。「かけがえのない地域への思い」
- ・教科横断型のアプローチ

<まとめ>

- 防災教育に特効薬なし、地道な種まき
- 高齢化，地域の力弱まる中で自ら判断し行動できる市民の育成
- 1人でも多くの人を「助ける側」に
- 東日本大震災の教訓→避難判断の最終のよりどころは住民自身
- 率先避難する人々＝リーダーを増やす。率先避難者が姿をさらし、声を掛ける